

ジャパンビューティプロダクツ 得意領域を磨いて成長を促す ワクワクするモノづくりを推進



高木正好社長

日本の化粧品OEM／ODM業界は、高い品質とこだわりのモノづくりで成長してきました。一方、海外OEMの日本進出などの影響を受けて、今までよりもコストやスピードを求められるようになっていきます。日本で海外勢の勢いが強くなってきた背景に

は、日本企業の強さの源流であった「品質へのこだわり」に固執しすぎる傾向が一因としてあると思われま。グローバル化への対応で、品質への対応で、品質向上を図ることで、今後

後、付加価値を訴求したモノづくりを推進していきます。こうした得意領域の強化施策は数字にも表れてくるようになりまし。2023年上期は、前年同期と比べ増収増益を推挙することができました。さらなる成長に向けて、経営ビジョンに掲げる「きらりと輝くワクワクする会社」を推進し、開発力や営業力の強化に取り組みしていきます。開発力の強化では、研究員の増強と合わせて、若手人材の育成に力を入れています。また、新規

規矩方開発を目的に大学や研究機関との共同開発に取り組みます。既に2つの大学とコンタクトをとり、情報交換を行っています。知名度の向上や優秀な人材確保に向けては、地元、営業力の強化では、取引先の要望に柔軟に答え、より強固にしていく予定です。ODM提案では、

地域交流では、情報共有やクリーンビューティを意識した企画を中心に、メカニカルな活用しながら情報発信を積極的に行っています。これらを推進し、みなさんにもっとワクワク